

センス・オブ・ワンダー & イマジン

今、届けたい紙芝居

混沌とした世の中、今一番必要なのは“不思議さに驚嘆する感性”と
“相手の心に寄り添う想像力”ではないでしょうか？

信念を持って創られた紙芝居は、それを見事に示唆してくれます。

紙芝居研究・実演の第一人者、加藤武郎氏（第49回久留島武彦文化賞受賞）には
紙芝居の神髄を語っていただき、森内直美と「心をつなぐ紙芝居の会」のメンバーが
珠玉の15作品を上演いたします。

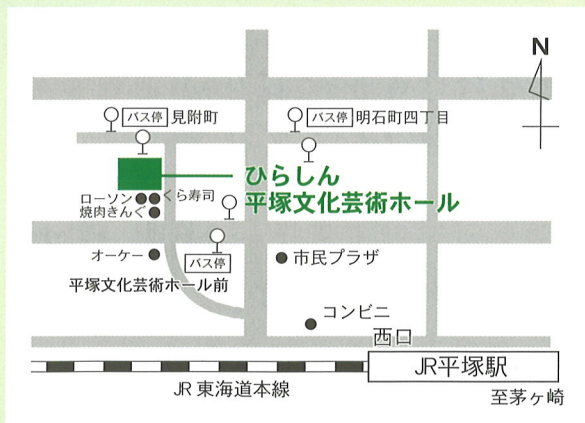


「でんでんむし」「てんからおだんご」「たつのこたろう」「あめこんこん」
「わしのおかあさん」「はとのアルノー」「うみにおちたピアノ」
「とんまなおおかみ」「杜子春」「雨のトーテム・ポール」

2024年6月1日(土) 12:00～16:30 (開場11:30)

会場：ひらしん平塚文化芸術ホール内 多目的ホール

入場無料 (お申し込み不要) 定員100名小学生以上 お問い合わせ 090-7197-2418(森内)



〒254-0045 神奈川県平塚市見附町 16-1

■電車でお越しの方

JR 東海道本線「平塚駅」西口から徒歩8分

■バスでお越しの方

神奈川中央交通「平塚文化芸術ホール前」から徒歩2分

または神奈川中央交通「見附町」から徒歩4分

※駐車場はございませんので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

※専用駐輪場(有料)は施設前(ホール南西側)にあります。

主催：心をつなぐ紙芝居の会

共催：紙芝居文化推進協議会・子どもの文化研究所 後援：平塚市教育委員会



先人たちのことば



私は、この病的にせかせかした時代に、紙芝居こそ「救い」だと思った。
荒野のような現代に残された「野の百合」のような文化である。

周郷 博

「紙芝居 創造と教育性」より

紙芝居の魅力は何であらうか。必要以外の一切のものを省き、もうこれ以上に
無駄を去ることが出来ないといふところまで追いつめているあの方法の、あの構造
のせいではあるまいか。云はば 渴いた時に山の中で清い泉から飲むやうな
喜ばしさとも云ふのであらうか。

佐藤 春夫

1948年「紙芝居」復刊第四号より

上からゆくな。下からゆくな。対等にいけ。

高橋 五山

「紙芝居 創造と教育性」より

作品を生かすも殺すも 演者しだいだ。
演者のうまい・すまいより、人格が端的に出ることを注意すべきで、だからこそ
しっかりした文化論を持っていなくてはならない。

川崎 大治

「ほろふ 紙芝居—黄金期名作選 解説」より

私は、紙芝居は「3歳から80歳までの芸術」だと考えている。

川崎 大治

「紙芝居 創造と教育性」より

紙芝居を演じるということは、ただ作品を見せるだけのものではない。
やる人が、その人間性や人格の全てをみけて積極的に文化創造に
参加していることであるのだ。

堀尾 青史

「紙芝居 創造と教育性」より

よい紙芝居は、かならず、心の変革、進展、情操が深まるものです。

堀尾 青史

「心をつなぐ紙芝居」より